

— 巻頭言 —

「生涯“楽”習のすすめ」

生涯学習部長 橋本 昇

今年の7月に内閣府が公表した「生涯学習世論調査」によると、生涯学習について「今後してみたい」と答えた人は70.5%と、前回の調査に比べ6.5ポイント上昇している一方で、この1年間で生涯学習を「したことがある」は47.2%と、全体の半数に届かない結果に終わっている。さらに、「していない」理由の中で「仕事が忙しく時間がない」と答えた割合が最も高いことを考えると、働く世代の、生涯学習はやってみたいが、いざ実行に移すとなるとなかなか難しい、といった現実がこの調査結果から見え隠れしているような気がする。

団塊の世代の最後尾にいる私にとっても例外ではない。生涯学習の仕事はしていても、改まって「何かしているか」と問われると返答に窮してしまうのではないだろうか、と考えた時、ふと青空の下、釣り船に乗って日がな一日釣糸を垂らしている自分が頭に浮かんできた。

生涯学習には、わざわざ時間を割いて、何かを学ばなくてはならないのではないか、という固いイメージがつい先行してしまう場合がある。いや、釣りでも、夜の飲み会でも、楽しみながら自分の身につくものであれば、それも生涯学習ならぬ生涯“楽”習ではないだろうか。

そう感じる昨今である。